

氏名	西井伸洋
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3523 号
学位授与の日付	平成20年3月25日
学位授与の要件	医歯学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Usefulness of a Long-Straight Sheath for Atrial Lead Insertion at the Right Atrial Septum (心房中隔にリードを留置するためのロングストレートシースの有用性)
--------	--

論文審査委員	教授 佐野俊二 教授 成瀬恵治 准教授 五藤恵次
--------	--------------------------

学位論文内容の要旨

心房中隔ペーシングは洞徐脈に伴う発作性心房細動の抑制や、合併症を減らすことに関して、右心耳ペーシングより優れていると考えられている。しかしながら、時として心房中隔にリードを留置するのは、困難であり、時間を要してしまう。そこで、ロングストレートシースを使用すると心房中隔近辺でリードを操作するスペースが得られることに注目し、その有用性を検討した。心房中隔にリード留置を試みた76人は、ロングストレートシースを使用しなかった群 (non-LSS 群: 24 人)、とロングストレートシースを使用した群 (LSS 群: 52 人) の2群に分けられた。成功率は、有意に LSS 群で高かった [50/52 (96.1%) vs. 13/24 (54.2%); $p < 0.01$]。リード留置に要した時間は LSS 群で有意に短かった (13.6 ± 9.1 min vs. 32.7 ± 11.1 min, $p < 0.01$)。P 波の幅は、両群において、中隔ペーシング時の方が、洞調律よりも有意に短かった。

心房中隔にリードを留置するのに、ロングストレートシースは有用と考えられた。

論文審査結果の要旨

本研究は、心房中隔ペーシングは洞徐脈に伴う発作性心房細動の抑制や、合併症を減らすことに関して、右心耳ペーシングより優れていると考えられる。しかし、心房中隔にリードを留置するのは困難であり、成功率も高いとは言えない。

本研究者らは、考案したロングストレートシースを用いることにより、この成功率を著しく向上させることに成功した。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。